

令和7年度 議会報告会・意見交換会実施報告書

総務常任委員会

令和8年3月13日
真岡市議会 委員会室

◆意見交換会

真岡市の国際交流について

◆参加者

真岡市国際交流協会

小林 忠教 会長
海老原 幸江 副会長
岡 直美 副会長
山口 由恵 副会長
菊地 まゆみ 通訳相談員



総務常任委員会

久保田 武 委員長 市井 元 副委員長
荒川 洋子 委員 星野 守 委員 春山 則子 委員
柳田 尚宏 委員 大瀧 和弘 委員

◆意見交換会の内容

Q. 活動の中で印象に残っている出来事や、やりがいを感じた瞬間はありますか？

- 年末にイヤーエンドパーティを毎年開催している。各国の出し物や、料理を紹介して、文化交流を行っているが、会場の問題や、コロナ禍で保健所の許可が厳しくなるなどの問題に直面した。各国の食文化を紹介することで国際交流を図っているため、市内各国の飲食店に協力を呼びかけ、ブラジル、ペルー、インド、中国などのテイクアウト販売を実現することができた。
- 市内各国飲食店と協力していく中で、お店を訪れる日本人が増えたとの声をいただき、食文化を通じて国際交流を深めることができたことでやりがいを感じた。
- 中国の二胡の演奏では、日本の曲を演奏していただき、外国人と日本人が会場一体となって踊り、楽しむことができた。
- 格闘技、ダンス、音楽が融合したブラジルの伝統文化であるカポエイラをストーリー仕立てにして幅広い世代の人が披露してくれた。最後は取った魚を分け合うというストーリーであり、争いの絶えない昨今の国際情勢の中で、他国で生活する自分たちが何を伝えていかなければならないのかを考えたストーリーだと感じた。国際交流は平和活動であると再認識した。

Q. 活動の中で感じている課題はありますか？

- いちご狩りや、イヤーエンドパーティ、世界の料理教室など、日本人も参加していただき、好評である。また、日本の文化を紹介するため、華道教室、着物でまち歩き、折り紙教室などを行っているが、参加者が少ないこともあるため、周知活動や、プログラ

ムの見直し、会員の確保などが課題である。

- 国際交流協会の設置目的は、真岡市の国際化、多文化共生であるが、市内在住外国人に安心して暮らしてもらおうというところに重きを置いている。真岡市の国際交流が進み、友好都市、姉妹都市との交流や、中学校での国際交流事業も推進している。これらの事業とも関わりながら、市内だけでなく海外に向けた幅広い活動をしていきたい。

Q. 今後の活動の展開は？

- これまではブラジル、ペルー、フィリピンの方が多かったが、現在はベトナムの方が一番多い状況となった。日本語教室に参加してもらっていても、仕事が忙しく辞めてしまうことが多い。就労先の企業とも連携しながら、地域に溶け込んでいけるよう働きかけていきたい。
- 労働力として受け入れされている外国人は企業側が整えた環境で生活しているため地域との繋がりができにくい、交通ルールや防災など生活の接点について考え、交流していきたい。
- 外国人に生活の潤いとしてイベントに参加していただきたい。開催日時など、就労先の意見も取り入れながら、参加しやすいイベントにしていきたい。



Q. 真岡市の国際交流の目指すべき姿は？

- 真岡市は国際交流が活発に行われている。海外に向けた交流も重要ではあるが、市内在住の外国人とも交流が深められるよう国際交流協会として関わっていききたい。宗教や文化の相互理解のための活動を目指している。
- 東南アジア系の方の困りごとの掘り起こしをしていきたい。企業の担当者となつがって、意見交換・問題解決の手助けをし、真岡市に住んでよかったと思ってもらいたい。
- 将来的には国際交流協会が、常設の相談窓口が設置できるとよい。

Q. 外国人市民から見た真岡市

- 真岡市は災害が少なく住みやすい。
- 市役所、病院、ハローワークなどに通訳がいて便利。市役所からのお知らせや、ごみの出し方などは翻訳して届くため助かる。
- JR 駅がない、バスの本数も少ないため交通が不便。
- 日本のイベント出店方法が分からない。また、外国人のイベントに日本人が参加少ない。周知の方法が分からない。
- 働く場所の選択肢が少ない。
- 日本に住み続け、帰国しないと考える人も増えている。高齢者の働く場所がなく、今後の生活に不安を抱えている。

令和 7 年度 議会報告会・意見交換会 実施報告書
民生文教常任委員会

◆開催日時・会場

令和 7 年 2 月 6 日（金） 13：30－15：00 真岡市役所 5 階委員会室

◆参加者

まちなか保健室関係者：

小池 且子 さん（駅前館）

渡辺 美恵子さん（田町館）

吉野 里絵子 さん（田町館）

那花 一廣さん（にのみや館）

稲見 雅己さん（にのみや館）

民生文教常任委員会：

渡邊 隆 委員長、上原 チョー
副委員長

大隈 広郷 委員、服部 正一郎
委員、鶴見 和弘 委員、
飯塚 正委員



◆議会報告会

「民生文教常任委員会の活動報告」

- ・真岡市議会の委員会について
- ・令和 7 年定例会（6 月・9 月・12 月）の審査内容について
- ・行政視察について

◆意見交換会テーマ

まちなか保健室の活動について

生きがいでつながる安心して暮らす老後の環境づくりについて

◆意見交換会の内容

Q. まちなか保健室では、どのような思いを大切に活動されていますか。

- 血圧測定や健康相談などを通して、来館された方が安心して相談でき、帰るときには笑顔になれるような場づくりを大切にしています。
- 数値による健康管理だけでなく、心の健康も重要であると考え、高齢者の外出のきっかけや人と人との交流の場となるよう取り組んでいます。
- 地域のサロンの役割を持ち、来館者同士やボランティアとの横のつながりが生まれることを大切にしています。

Q. 現在の活動の中で好評なものは何ですか。

- カラオケやフラダンス、津軽三味線などの音楽関係の催しは参加者が多く、楽しみにしている方が多いです。
- 整体や健康麻雀などの健康づくりに関する活動も人気があります。
- 折り紙教室は継続的な参加につながっており、地域の居場所としての役割を果たしています。
- スマートフォン相談会では、高校生や大学生と高齢者が交流する機会となり、大変好評でした。



Q. 運営していく中での課題は何ですか。

- ボランティアの確保が難しく、当番の調整に苦労しています。
- 若い世代は仕事や受験などで忙しく、継続的な参加が難しい状況です。
- 健康増進課の事業内容が十分に共有されていないため、問い合わせへの対応に苦慮することがあります。
- 施設の老朽化により雨漏りや排水設備の不具合があり、定期的な点検や修繕が必要です。
- 血圧計などの測定機器が古くなっており、更新を望む声があります。

Q. 初めて来る方が利用しやすくするための工夫はありますか。

- 当番者の資格（看護師・保健師・助産師など）や名前を表示することで、安心して相談できるようにしたいと考えています。
- 自治会など地域とのつながりの中で周知を行い、地道に活動を続けることで利用者の増加につなげています。
- 男性の参加が少ない傾向があるため、参加しやすい内容の工夫が必要であると感じています。

Q. まちなか保健室は、皆さんにとってどのような存在になっていますか。

●活動に参加すること自体が生きがいとなっており、行くと元気をもらえる場所になっています。

●地域の中で人とつながることで、安心して暮らしていくための支えになっています。

Q. 地域で生きがいを持って暮らしていくために必要なことは何ですか。

●仕事やボランティア、趣味など外に出る機会がある人は生きがいを持ちやすいと感じています。

●一方で、家にこもりがちな高齢者にどのように参加を促すかが課題です。

●若い世代や子どもとの交流の機会を増やしていきたいと考えています。

●個々のニーズを把握するためのアンケートなどが必要ではないかとの意見がありました。

Q. 議会や行政に望むことはありますか。

●各まちなか保健室の活動を実際に見に来てほしいとの要望がありました。

●医療費の負担軽減を望む声がありました。

●施設や設備の点検・修繕を計画的に行ってほしいとの意見がありました。

◆今後の委員会としての取組

本意見交換会において、まちなか保健室が地域の健康づくりや居場所づくりにおいて重要な役割を担っていること、また運営に当たっては人材確保や施設の老朽化などの課題があることが明らかになりました。



委員会としては、まちなか保健室が今後も安定的に運営され、地域に根差した活動が継続できるよう、必要な支援の在り方について調査・検討してまいります。

今後は、委員会として各まちなか保健室の活動状況を現地で確認し、現場の声を踏まえた施策提案につなげてまいります。

令和7年度 議会報告会・意見交換会実施報告書 産業建設常任委員会

令和8年1月22日
真岡市議会 委員会室

◆参加者

もおか観光コンシェルジュ :

鹿又 只久 会長
小池 けい子 副会長
松井 美砂子 副会長
大塚 由美子 会員
梶川 伸一 会員
高松 由紀子 会員
渡辺 美恵子 会員

産業建設常任委員会 :

七海 朱美 委員長
添野 郁 副委員長
日下田喜義 委員
櫛毛 隆行 委員
麦倉 竹明 委員
中野 達生 委員
須田 正彦 委員



◆議会報告会

「産業建設常任委員会の活動報告」

- ・真岡市議会の委員会について
- ・令和7年定例会(6月・9月・12月)の審査内容について
- ・行政視察について

◆意見交換会

真岡市観光のこれから



◆意見交換会の内容

Q1. 観光ボランティアとして、普段どのような活動をされているか

●2013年に、真岡の魅力発信と観光資源の掘り起こしを目的に、「観光ネットワーク事業」がスタート。その一環として観光コンシェルジュが発足。2013年の発足から2025年12月末までで累計約14,300人を案内。

●「真岡大好き」を合言葉に、申し込みのあった方に対してガイド料無料で、60分～90分、真岡の歴史や文化、魅力を案内。

●募集型ガイドも年数回企画し、企画にあたっては、街を歩きながらコースづくりを行っている。

●月1回定例会を開催、勉強会や情報交換会を通して案内のスキルアップやガイド情報の共有を図っている。



Q2. 観光客と直接接する中で、依然と比べて変わったと感じる点はあるか

●発足当初は、説明をしても黙って聞いているだけだったが、最近は、関心をもって、事前に勉強してくるグループが増え、私たちが教わるケースもある。

●お客さんからの質問を共有することによって、私たちのスキルアップにつながっている。

●発足から13年も経つと、街の様子もガイドへのニーズも変化、門前地区は、一時若者の出店がありちょっとした賑わいがみられたが、今は、店舗数も減少。門前地区への関心も薄れつつある。

Q3. 「これは真岡の強みだ」と誇れる点と、「正直ここは弱い」と感じる点

●真岡市には、二宮尊徳翁や、専修寺、大前神社など、観光資源は多い、しかし、真岡の人が関心、興味を持っていない。

●食事をするお店が少ない。特に、祝休日に休みのところが多く、お客さんに聞かれても、おすすめすることが難しい。

●駐車場が、地元利用が多く、観光客が止められない。車で来る方が多いので、祝休日には、公共施設の駐車場利用など、駐車場の整備が必要。

●観光で来てくれる人の多くが、他市町の歴史サークルの方々と、高齢者が中心。若い人が少ない。

●天皇家の末裔芳賀氏→平安時代から520年間真岡市を治めた。

●竹垣代官→新潟から移民受け入れ、子ども手当のような支援実施。

Q4. これまでの活動の中で、印象に残った出来事や、やっていてよかったと感じた瞬間

●案内したお客さんが、新聞の読者投稿欄に感想を投稿してくれ、その記事を見たとき、とても嬉しく、モチベーションが上がった。

●ガイドのレベルアップのために、調査や勉強して、新たな発見や気づきがあったとき、感動と共に、楽しく、やりがいを感じる。

Q5. 今後の課題と、真岡市は、どのような観光の形を目指すべきか

- なり手不足と、コンシェルジュメンバーの高齢化が課題、FM もおかで番組をもつなどの対応はしているが、認知不足も課題。市内の人にもっと観光コンシェルジュについて知ってもらいたい。
- お客さんも高齢化。リピート参加の多い市内在住のお客さんが「参加したいが現地までの交通手段がない」という方が出てきている。もおかベリー号など、公共交通網の充実をお願いしたい。
- 案内前に、VTR の視聴や事前説明が出来る施設(場所)があれば、もっと充実した観光案内ができる。
- お客さんの中心である、高齢者の方は、門前文化に興味がある方が多い、ジオラマを作成して、華やかだった門前の「花柳文化」の説明が出来れば、もっと多くに人に来てもらえると思う。
- 市民の方に、もっと真岡の歴史や文化に興味をもってもらい、シビックプライドを醸成することにより、歴史や文化を新たな視点で観光資源化できるのではないかな。